

はじめに

私たちの生活を取り巻く社会や環境が急速に変化する中、次代を担う子どもたちの健全な育成に強い関心が寄せられています。こうした中、子どもたちに自ら学び、自ら考えるなどの「生きる力」を育成することをねらいに、平成14年度から全国の小中学校で「完全週5日制」と「総合的な学習の時間」が本格的にスタートしました。

特に横断的・総合的な学習や児童の興味・関心等に基づく学習など創意工夫を活かした教育活動を行う時間として位置づけられた「総合的な学習の時間」は、体験的・問題解決的な学習を積極的に取り入れることが重視され、学習活動を支えるもの・ひと・場所といった環境が必要となることから、地域と学校の連携が不可欠となっています。

本ハンドブックでは、子どもたちが農業・農村体験を通して、暮らしと自然の関わり、地域の生活文化について体験的に学べるよう、学校と地域が連携して取り組む際の活動のヒントを掲載したものです。

農業・農村体験は、身近な暮らしや地域について学びながら、食料・環境・生命など多方面にわたって理解を深めることができる優れた学習テーマと言えます。

しかしながら、地域と学校間相互の意志疎通がすべての地域において十分とは言えず、こうした学習活動が成立しにくい状況もあります。この溝を埋めることをねらいとして企画・制作されたのが、本ハンドブックです。本書が地域と学校をつなげ、子どもたちの豊かな世界を育む一助になれば幸いです。

最後に、本書のとりまとめにあたり、ご尽力いただいた岩手大学教育学部佐藤幸也助教授、福島大学教育学部鈴木庸裕助教授ならびに、社団法人地域社会計画センター、資料提供等にご協力いただきました学校・JA等の関係者に対して、深く感謝の意を表します。

平成14年7月

全国農業協同組合中央会